

2024年10月29日(火)発表
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
担当 芸術情報・広報課(木村・竹田)
電話 0561-76-2873(ダイヤルイン)
E-mail geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

愛知県立芸術大学芸術講座

アニメーション・イン・アカデミア

「大学におけるアニメーションの Thinking/Making とは何か」

愛知県立芸術大学社会連携センターでは、広く県民の皆さまに芸術文化に親しんでいただくために、「愛知芸大芸術講座」を多数開催いたしております。このたびは、芸術講座アニメーション・イン・アカデミアを開催いたします。

是非貴社にお取り上げいただきたく、お願い申し上げます。

【タイトル】アニメーション・イン・アカデミア

「大学におけるアニメーションの Thinking/Making とは何か」

【日程】2025年1月11日(土)

【時間】13:00から15:00まで(12:30開場)

【講師】山村浩二(東京藝術大学大学院教授、本学客員教授)、
佐野明子(同志社大学准教授)、
有持旭(本学美術学部教授)

【受講料】無料

【定員】70名(事前申込:先着順 申込〆切1月10日(金)正午まで)

【会場】愛知県立芸術大学 芸術資料館 地下1階演習室

【申込方法】右記QRコードから。

【問合せ】愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2873

URL: <https://www.aichi-fam-u.ac.jp>



申込フォーム

現在、日本のアニメーション文化が世界を牽引しているわけではありません。他国から後退しているとも考えられます。日本では全国的に大学でアニメーションを学べるようになっておよそ 20 年になります。多くの結果を出している一方で多くの問題点も見えてきました。例えば、アニメーションはメディア芸術として多様性を持っていながらも、未だ固定的な表現によるアウトプットが多いように見受けられます。また、日本ではアニメーションを批評したりキュレーションできる専門家が未だ希薄な現状があります。さらに、若い研究者による学際的研究が少しずつ増えているものの、国際的学術の場で日本人研究者の活躍がほとんど見られません。こうしたなか、この講座では、アニメーションを大学で考えたり、作ったりすることの意義に着目し、現在のアニメーション教育の現場で起こっている問題点や今後の展望を共有するために、3 人の大学教員が対談いたします。

アニメーション・イン・アカデミア

大学におけるアニメーションの Thinking / Making とは何か

山村浩二 と 佐野明子 と 有持旭

2025 年 1 月 11 日 [土] 13 時～15 時

会場 | 愛知県立芸術大学芸術資料館 地下 1 階演習室

アニメーション・イン・アカデミア

Animation in Academia

日時 | 2025年1月11日 [土] 13時~15時 開場 12時30分

会場 | 愛知県立芸術大学 芸術資料館 地下1階演習室

受講料 | 無料

定員 | 70名。事前申込制。申込〆切1月10日[金]正午まで。ただし、当日残席がある場合は、ご入場いただくことが可能です。直接会場へお越しください。

専用フォーム URL



主催 | 愛知県立芸術大学

企画 | 愛知県立芸術大学 社会連携センター

お問い合わせ | 芸術情報・広報課 0561-76-2873 (平日 9:00-17:30)

駐車場には数に限りがございますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。名古屋方面から：市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車 徒歩約10分、もしくは市営地下鉄東山線「本郷」駅または「藤が丘」駅からタクシーで約15分。豊田・瀬戸方面から：愛知環状鉄道「八草」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車 徒歩約10分



山村浩二 東京藝術大学大学院教授 アニメーション作家

1964年生まれ。1987年東京造形大学卒業。「頭山」（02年）が第75回アカデミー賞にノミネート、「今世紀100年の100作品」の1本に選出。「カフカ 田舎医者」「幾多の北」など、アヌシー国際アニメーション映画祭、オタワの短編・長編グランプリ受賞、ザグレブやシュトゥットガルトのグランプリなど、148の賞を受賞。24年に「とても短い」がカンヌ監督週間公式セレクション。絵本「おやおや、おやさい」は48万部を超えるロングセラー、他に「ばれーど」など100タイトルを超える絵本に携わる。川喜多賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章受章。中国美術学院客員教授、東京造形大学客員教授、愛知県立芸術大学客員教授。



佐野明子 同志社大学准教授 アニメーション研究者

ヤン・シュヴァンクマイエル研究で修士号、アジア・太平洋戦争期の日本アニメ研究で博士号を取得（大阪大学大学院）。共著書に『戦争と日本アニメ』（2022）。共著『日本大衆文化史』（2020）『<キャラクター>の大衆文化』（2021）は韓国語版も刊行。統計学者との共同研究の成果論文に「Connecting Character Theory and Quantitative Analysis in Anime Studies」（2025掲載決定）。「渡辺泰展」（2018）や文化庁のアーカイブ事業に協力。国際日本文化研究センター客員准教授（2020-22）。



有持旭 愛知県立芸術大学教授 アニメーション史家

1977年生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科にて博士号取得。エストニア・アニメーションが専門。24年は、本学とエストニア芸術アカデミーとの国際交流事業を企画（12月開催）。また、現代アニメーション研究国際会議 Animafest Scanner XI（ザグレブ）で研究発表したほか、アニメーションとシュルレアリスムに関する歴史を複数の大学教員と共同研究している。さらに、22年にイェール大学の助成を受け同機関で行ってきた映像研究は、現在も継続している。一方、美術作家として、アブドゥルアジズ王世界文化センターの協力で制作した『並んだ LAND』（23）はザグレブ国際アニメーション映画祭でプレミア上映された。

